



福岡医発第380号（地）
平成29年5月8日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会長 松 田 峻一良
（公 印 省 略）

障害者総合支援法の対象となる疾病の見直しについて

今般、標記の件について、別紙のとおり厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課長より、各都道府県等衛生主管部（局）長宛に通知が出され、本会に対しても日本医師会を通じて周知方依頼がありました。

平成25年4月に施行された「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（以下、「障害者総合支援法」という。）において、障害者の定義に新たに治療方法が確立していない疾病その他の特殊の疾病が追加され、疾病名により障害福祉サービス等の対象となる範囲が定められているところです。

本件は、障害者総合支援法対象疾病検討会における議論等を踏まえ、平成29年4月1日より、同法に基づく障害福祉サービス等の対象となる疾病の範囲が332疾病から358疾病に拡大されたことを周知するものです。

つきましては、貴会におかれましても本件にご了知いただき、貴会会員への周知方よろしく願いいたします。

なお、障害福祉サービス等の申請に必要となる診断書や障害支援区分の認定に必要となる医師意見書等の作成に際しましては、別紙にある疾病名を記載いただきますよう、ご留意のほどお願いいたします。

小郡三井医師会より

障害福祉担当理事 古川哲也
会長 白石恒明

(地Ⅲ 1 5)

平成 2 9 年 4 月 1 2 日

都道府県医師会
担当理事 殿

日本医師会常任理事
羽 鳥 裕
松 本 純 一

障害者総合支援法の対象となる疾病の見直しについて

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成 2 5 年 4 月に施行された障害者総合支援法において、障害者の定義に新たに治療方法が確立していない疾病その他の特殊の疾病が追加され、疾病名により障害福祉サービス等の対象となる範囲が定められているところです。

今般、障害者総合支援法対象疾病検討会における議論等を踏まえ、平成 2 9 年 4 月 1 日より、同法に基づく障害福祉サービス等の対象となる疾病の範囲が 3 3 2 疾病から 3 5 8 疾病に拡大されることとなり、別添とおり、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課長より、各都道府県等衛生主管部（局）長宛に医療機関への周知について通知がなされ、本会に対しても周知、協力方依頼がありました。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了解いただき、貴会管下郡市区医師会、及び関係医療機関への周知方よろしくご高配のほどお願い申し上げます。

なお、障害福祉サービス等の申請に必要な診断書や障害支援区分の認定に必要な医師意見書等の作成に際しましては、別紙にある疾病名を記載いただきますよう、ご留意のほどお願い申し上げます。

事 務 連 絡
平成 29 年 3 月 29 日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課

障害者総合支援法の対象となる疾病の見直しに関する周知について

時下、貴会におかれましては益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素より厚生労働行政の運営に御理解、御協力いただき厚く御礼申し上げます。

標記については、指定難病の対象疾病の検討等を踏まえ、障害者総合支援法の対象となる特殊の疾病を平成 29 年 4 月 1 日より 332 疾病から 358 疾病に拡大することとしており、医療機関に対する周知について、別添のとおり平成 29 年 3 月 24 日付けで各都道府県・政令市・特別区の衛生主管部（局）長宛てに依頼しました。障害者総合支援法の対象となる疾病は、難病法に基づく指定難病以外のものも含まれております。

貴会におかれましては、会員への周知についてご協力いただきますようお願い申し上げます。

【担当】

厚生労働省障害保健福祉部企画課

課長補佐 峯（内線 3019）

係 長 和田（内線 3029）

TEL 03-5253-1111

FAX 03-3502-0892

障企発0324第3号
平成29年3月24日

都道府県
各政令市 衛生主管部（局）長 殿
特別区

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課長
（公印省略）

障害者総合支援法の対象となる疾病の見直しに関する医療機関への周知について

厚生労働行政の推進については、日頃よりご尽力いただき厚く御礼申し上げます。

平成25年4月に施行された「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（平成17年法律第123号。以下「障害者総合支援法」という。）では、障害者の定義に新たに治療方法が確立していない疾病その他の特殊の疾病を追加し、疾病名により障害福祉サービス等の対象となる範囲を定めているところです。

今般、障害者総合支援法対象疾病検討会における議論等を踏まえ、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律施行令第1条に基づき厚生労働大臣が定める特殊の疾病の一部を改正する件」（平成29年厚生労働省告示第81号）が公布されました。これにより、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス等の対象となる疾病の範囲を332疾病から358疾病に拡大する等の改正が行われ、平成29年4月1日より適用されることとなります。

つきましては管内の医療機関等に対し、今回の改正の周知方お願い申し上げます。

また、その際、事務手続きを円滑に進め、難病患者等に必要なサービスを速やかに受けていただく観点から、障害福祉サービス等の申請に必要な診断書や障害支援区分の認定に必要な医師意見書等の作成に当たっては、別紙にある疾病名を記載することについてご配慮いただけますよう、併せて、周知方お願い申し上げます。

平成29年4月1日からの障害者総合支援法の対象疾病一覧（358疾病）

※ 新たに対象となる疾病（26疾病）

△ 表記が変更された疾病（2疾病）

○ 障害者総合支援法独自の対象疾病（29疾病）

番号	疾病名	番号	疾病名	番号	疾病名
1	アイカルディ症候群	64	完全大血管転位症	127	コフィン・ローリー症候群
2	アイザックス症候群	65	眼皮腐白皮症	128	混合性結合組織病
3	I g A腎症	66	偽性副甲状腺機能低下症	129	鰓耳腎症候群
4	I g G 4関連疾患	67	ギャロウェイ・モウト症候群	130	再生不良性貧血
5	亜急性硬化性全脳炎	68	急性壊死性脳症 ○	131	サイトメガロウィルス角膜炎内皮炎 ○
6	アジソン病	69	急性網膜壊死 ○	132	再発性多発軟骨炎
7	アッシャー症候群	70	球脊髄性筋萎縮症	133	左心低形成症候群
8	アトピー性脊髄炎	71	急速進行性糸球体腎炎	134	サルコイドーシス
9	アペール症候群	72	強直性脊椎炎	135	三尖弁閉鎖症
10	アミロイドーシス	73	強皮症	136	三頭筋素欠損症 ※
11	アラジール症候群	74	巨細胞性動脈炎	137	CFC症候群
12	有馬症候群	75	巨大静脈奇形（頸部口腔嚥頭びまん性病変）	138	シェーグレン症候群
13	アルポート症候群	76	巨大動脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）	139	色素性乾皮症
14	アレキサンダー病	77	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	140	自己貪食空胞性ミオパチー
15	アンジェルマン症候群	78	巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）	141	自己免疫性肝炎
16	アントレー・ピクスラー症候群	79	筋萎縮性側索硬化症	142	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症 △
17	イソ吉草酸血症	80	筋型糖原病	143	自己免疫性溶血性貧血
18	一次性ネフローゼ症候群	81	筋ジストロフィー	144	四肢形成不全 ※ ○
19	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	82	クッシング病	145	シトステロール血症
20	1 p 36欠失症候群	83	クリオピリン関連周期熱症候群	146	シトリン欠損症 ※
21	遺伝性自己炎症疾患 ※	84	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	147	紫斑病性腎炎
22	遺伝性ジストニア	85	クルーゾン症候群	148	脂肪萎縮症
23	遺伝性周期性四肢麻痺	86	グルコーストランスポートー 1 欠損症	149	若年性肺気腫
24	遺伝性腭炎	87	グルタル酸血症1型	150	シャルコー・マリー・トゥース病
25	遺伝性鉄芽球性貧血	88	グルタル酸血症2型	151	重症筋無力症
26	VATER症候群	89	クロウ・深瀬症候群	152	修正大血管転位症
27	ウィーバー症候群	90	クローン病	153	シュワルツ・ヤンペル症候群
28	ウィリアムズ症候群	91	クローンカイト・カナダ症候群	154	徐波睡眠期持続性棘波を示すてんかん性脳症
29	ウィルソン病	92	痙攣重積型（二相性）急性脳症	155	神経細胞移動異常症
30	ウエスト症候群	93	結節性硬化症	156	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症
31	ウェルナー症候群	94	結節性多発動脈炎	157	神経線維腫症
32	ウォルフラム症候群	95	血栓性血小板減少性紫斑病	158	神経フェリチン症
33	ウルリッヒ病	96	限局性皮質異形成	159	神経有棘赤血球症
34	HTLV-1 関連脊髄症	97	原発性局所多汗症 ○	160	進行性核上性麻痺
35	A T R-X 症候群	98	原発性硬化性胆管炎	161	進行性骨化性線維異形成症
36	A D H 分泌異常症	99	原発性高脂血症	162	進行性多巣性白質脳症
37	エーラス・ダンロス症候群	100	原発性側索硬化症	163	進行性白質脳症 ※
38	エプスタイン症候群	101	原発性胆汁性胆管炎 △	164	進行性ミオクロームスてんかん ※
39	エプスタイン病	102	原発性免疫不全症候群	165	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症
40	エマヌエル症候群	103	顕微鏡の大腸炎 ○	166	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症
41	遠位性ミオパチー	104	顕微鏡的多発血管炎	167	スタージ・ウェーバー症候群
42	円錐角膜 ○	105	高 I g D 症候群	168	スティーヴンス・ジョンソン症候群
43	黄色靱帯骨化症	106	好酸球性消化管疾患	169	スミス・マギニス症候群
44	黄斑ジストロフィー	107	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	170	スモン ○
45	大田原症候群	108	好酸球性副鼻腔炎	171	脆弱X症候群
46	オクシピタル・ホーン症候群	109	抗糸球体基底膜腎炎	172	脆弱X症候群関連疾患
47	オスラー病	110	後縦帯骨化症	173	正常圧水頭症 ○
48	カーニー複合	111	甲状腺ホルモン不応症	174	成人スチル病
49	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	112	拘束型心筋症	175	成長ホルモン分泌亢進症
50	潰瘍性大腸炎	113	高チロシン血症1型	176	脊髄空洞症
51	下垂体前葉機能低下症	114	高チロシン血症2型	177	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)
52	家族性地中海熱	115	高チロシン血症3型	178	脊髄髄膜瘤
53	家族性良性慢性天疱瘡	116	後天性赤芽球病	179	脊髄性筋萎縮症
54	カナバン病 ※	117	広範脊柱管狭窄症	180	セピアプテリン還元酵素 (SR) 欠損症 ※
55	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	118	抗リン脂質抗体症候群	181	前眼部形成異常 ※
56	歌舞伎症候群	119	コケイン症候群	182	全身型若年性特発性関節炎
57	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	120	コステロ症候群	183	全身性エリテマトーデス
58	カルニチン回路異常症 ※	121	骨形成不全症	184	先天異常症候群 ※
59	加齢黄斑変性 ○	122	骨髄異形成症候群 ○	185	先天性横隔膜ヘルニア
60	肝型糖原病	123	骨髄線維症 ○	186	先天性核上性球麻痺
61	間質性膀胱炎（ハンナ型）	124	ゴナドトロピン分泌亢進症	187	先天性気管狭窄症 ※
62	環状20番染色体症候群	125	5 p 欠失症候群	188	先天性魚鱗癬
63	関節リウマチ	126	コフィン・シリス症候群	189	先天性筋無力症候群

平成29年4月1日からの障害者総合支援法の対象疾病一覧（358疾病）

※ 新たに対象となる疾病（26疾病）

△ 表記が変更された疾病（2疾病）

○ 障害者総合支援法独自の対象疾病（29疾病）

番号	疾病名	番号	疾病名	番号	疾病名
190	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症 ※	249	那須・ハコラ病	308	ペルーシド角膜辺縁変性症 ○
191	先天性三尖弁狭窄症 ※	250	軟骨無形成症	309	ペレオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）
192	先天性腎性尿崩症	251	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	310	片側巨脳症
193	先天性赤血球形成異常性貧血	252	22q11.2欠失症候群	311	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群
194	先天性僧帽弁狭窄症 ※	253	乳幼児肝巨大血管腫	312	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症 ※
195	先天性大脳白質形成不全症	254	尿素サイクル異常症	313	発作性夜間ヘモグロビン尿症
196	先天性肺静脈狭窄症 ※	255	ヌーナン症候群	314	ポルフィリン症
197	先天性風疹症候群 ○	256	ネイロパテラ症候群（汎発性骨髄質）/LMX1B関連腎症 ※	315	マリネスコ・シェーグレン症候群
198	先天性副腎低形成症	257	脳髄黄色腫症	316	マルファン症候群
199	先天性副腎皮質酵素欠損症	258	脳表ヘモジデリン沈着症	317	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパシー
200	先天性ミオパチー	259	膿疱性乾癬	318	慢性血栓性肺高血圧症
201	先天性無痛無汗症	260	嚢胞性線維症	319	慢性再発性多発性骨髄炎
202	先天性葉酸吸収不全	261	パーキンソン病	320	慢性肝炎 ○
203	前頭側頭葉変性症	262	パージャー病	321	慢性特発性偽性腸閉塞症
204	早期ミオクロニー脳症	263	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	322	ミオクロニー欠神てんかん
205	総動脈幹遺残症	264	肺動脈性肺高血圧症	323	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん
206	総排泄腔遺残	265	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	324	ミトコンドリア病
207	総排泄腔外反症	266	肺胞低換気症候群	325	無虹彩症 ※
208	ソトス症候群	267	パッド・キアリ症候群	326	無脾症候群
209	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	268	ハンチントン病	327	無βリポタンパク血症
210	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	269	汎発性特発性骨増殖症 ○	328	メーブルシロップ尿症
211	大脳皮質基底核変性症	270	P C D H19関連症候群	329	メチルグルタコン酸尿症 ※
212	大理石骨病 ※	271	非ケトーシス型高グリシ血症 ※	330	メチルマロン酸血症
213	ダウ症候群 ○	272	肥厚性皮膚骨膜炎	331	メビウス症候群
214	高安静脈炎	273	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	332	メンケス病
215	多系統萎縮症	274	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	333	網膜色素変性症
216	タナトフォリック骨異形成症	275	肥大型心筋症	334	もやもや病
217	多発血管炎性肉芽腫症	276	左肺動脈右肺動脈起始症 ※	335	モワット・ウィルソン症候群
218	多発性硬化症／視神経脊髄炎	277	ビタミンD依存性くる病／骨軟化症	336	薬剤性過敏症候群 ○
219	多発性軟骨性外骨腫症 ※ ○	278	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症	337	ヤング・シンプソン症候群
220	多発性嚢胞腎	279	ビッカースタッフ脳幹脳炎	338	優性遺伝形式をとる遺伝性難聴 ○
221	多脾症候群	280	非典型溶血性尿毒症症候群	339	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん
222	タンジール病	281	非特異性多発性小腸潰瘍症	340	4p欠失症候群
223	単心室症	282	皮膚筋炎／多発性筋炎	341	ライソゾーム病
224	弾性線維性仮性黄色腫	283	びまん性汎細気管支炎 ○	342	ラスムッセン脳炎
225	短腸症候群 ○	284	肥満低換気症候群 ○	343	ランゲルハンス細胞組織球症 ○
226	胆道閉鎖症	285	表皮水疱症	344	ランドウ・クレフナー症候群
227	遅発性内リンパ水腫	286	ヒルシュスプリング病（全結腸型又は小腸型）	345	リジン尿性蛋白不耐症
228	チャージ症候群	287	ファイファー症候群	346	両側性小耳症・外耳道閉鎖症 ○
229	中隔視神経形成異常症／ドモルシア症候群	288	ファロー四徴症	347	両大血管右室起始症
230	中毒性表皮壊死症	289	ファンconi貧血	348	リンパ管腫症／ゴーム病
231	腸管神経節細胞減少症	290	封入体筋炎	349	リンパ管筋腫症
232	TSH分泌亢進症	291	フェニルケトン尿症	350	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）
233	TNF受容体関連周期性症候群	292	複合カルボキシラーゼ欠損症	351	ルビンシュタイン・ティビ症候群
234	低ホスファターゼ症	293	副甲状腺機能低下症	352	レーベル遺伝性視神経症
235	天疱瘡	294	副腎白質ジストロフィー	353	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症
236	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	295	副腎皮質刺激ホルモン不応症	354	劣性遺伝形式をとる遺伝性難聴 ○
237	特発性拡張型心筋症	296	ブラウ症候群	355	レット症候群
238	特発性間質性肺炎	297	ブラダー・ウィリ症候群	356	レノックス・ガストー症候群
239	特発性基底核石灰化症	298	プリオン病	357	ロスマンド・トムソン症候群
240	特発性血小板減少性紫斑病	299	プロピオン酸血症	358	肋骨異常を伴う先天性側弯症
241	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。） ※	300	PRL分泌亢進症（高プロラクチン血症）		
242	特発性後天性全身性無汗症	301	閉塞性細気管支炎		
243	特発性大腿骨頭壊死症	302	β-ケトチオラーゼ欠損症 ※		
244	特発性門脈圧亢進症	303	ベーチェット病		
245	特発性両側性感音難聴	304	ベスレムミオパチー		
246	突発性難聴 ○	305	ヘパリン起因性血小板減少症 ○		
247	ドラベ症候群	306	ヘモクロマトーシス ○		
248	中條・西村症候群	307	ペリー症候群		

対象外となった疾病について

- ①平成27年1月以降に対象外になった疾病 ②平成27年7月以降に対象外になった疾病

疾病名
劇症肝炎
重症急性膵炎

疾病名
肝外門脈閉塞症
肝内結石症
偽性低アルドステロン症
ギラン・バレ症候群
グルココルチコイド抵抗症
原発性アルドステロン症
硬化性萎縮性苔癬
好酸球性筋膜炎
視神経症
神経性過食症
神経性食欲不振症
先天性QT延長症候群
TSH受容体異常症
特発性血栓症
フィッシャー症候群
メニエール病

- これらの疾病については、障害者総合支援法の対象外となりましたが、すでに障害福祉サービス等※の支給決定等を受けたことがある方は引き続き利用可能です。

- ① 平成27年1月1日以降は対象外となりますが、平成26年12月31日までに障害福祉サービス等※の支給決定等を受けたことがある方は引き続き利用可能です。
- ② 平成27年7月1日以降は対象外となりますが、平成27年6月30日までに障害福祉サービス等※の支給決定等を受けたことがある方は引き続き利用可能です。

※障害福祉サービス・相談支援・補装具及び地域生活支援事業
(障害児の場合は、障害児通所支援と障害児入所支援も含む)

難病法に基づく指定難病と障害者総合支援法の「特殊の疾病」で異なる疾病名を用いているもの

平成29年4月1日より

障害者総合支援法の対象疾病		難病法の指定難病
10	アミロイドーシス	全身性アミロイドーシス
36	ADH分泌異常症	下垂体性ADH分泌異常症
63	関節リウマチ	悪性関節リウマチ
73	強皮症	全身性強皮症
99	原発性高脂血症	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）
		原発性高カイルロミクロン血症
118	抗リン脂質抗体症候群	原発性抗リン脂質抗体症候群
124	ゴナドトロピン分泌亢進症	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症
149	若年性肺気腫	$\alpha 1$ - アンチトリプシン欠乏症
175	成長ホルモン分泌亢進症	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症
232	TSH分泌亢進症	下垂体性TSH分泌亢進症
245	特発性両側性感音難聴	若年発症型両側性感音難聴
259	膿疱性乾癬	膿疱性乾癬（汎発型）
300	PRL分泌亢進症（高プロラクチン血症）	下垂体性PRL分泌亢進症

注）障害者総合支援法の対象疾病は、指定難病より対象範囲が広がっています。

疾病名の表記を変更したもの(新旧対照表)

平成27年1月1日施行時に変更済みの疾病名	
【旧】 平成26年12月31日までの疾病名	【新】 平成27年1月1日以降の疾病名
アミロイド症	アミロイドーシス
アレルギー性肉芽腫性血管炎	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症
ウェグナー肉芽腫症	多発血管炎性肉芽腫症
ADH不適合分泌症候群	ADH分泌異常症
中枢性尿崩症	
結節性動脈周囲炎	結節性多発動脈炎
	顕微鏡的多発血管炎
高プロラクチン血症	PRL分泌亢進症（高プロラクチン血症）
ゴナドトロピン分泌過剰症	ゴナドトロピン分泌亢進症
脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)
先端巨大症	成長ホルモン分泌亢進症
側頭動脈炎	巨細胞性動脈炎
大動脈炎症候群	高安動脈炎
多巣性運動ニューロパチー	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	
多発筋炎	皮膚筋炎／多発性筋炎
皮膚筋炎	
多発性硬化症	多発性硬化症／視神経脊髄炎
TSH産生下垂体腺腫	TSH分泌亢進症
特発性大腿骨頭壊死	特発性大腿骨頭壊死症
有棘赤血球舞踏病	神経有棘赤血球症
リソソーム病	ライソソーム病
リンパ管筋腫症	リンパ脈管筋腫症
レフェトフ症候群	甲状腺ホルモン不応症

平成27年7月1日施行時に変更済みの疾病名	
【旧】 平成27年6月30日までの疾病名	【新】 平成27年7月1日以降の疾病名
難治性ネフローゼ症候群	一次性ネフローゼ症候群
加齢性黄斑変性症	加齢黄斑変性
進行性骨化性線維形成異常症	進行性骨化性線維異形成症
先天性魚鱗癬様紅皮症	先天性魚鱗癬
ビタミンD依存症二型	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症
ペルオキシソーム病	副腎白質ジストロフィー
	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）

平成29年4月1日施行時に変更する疾病名	
【旧】 平成29年3月31日までの疾病名	【新】 平成29年4月1日以降の疾病名
原発性胆汁性肝硬変	原発性胆汁性胆管炎
自己免疫性出血病ⅩⅢ	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症

○厚生労働省告示第八十一号

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律施行令（平成十八年政令第十号）第一条の規定に基づき、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律施行令第一条に基づき厚生労働大臣が定める特殊の疾病（平成二十七年厚生労働省告示第二百九十二号）の一部を次のように改正し、平成二十九年四月一日から適用する。

平成二十九年三月二十四日

厚生労働大臣 塩崎 恭久

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改め、改正前欄及び改正後欄に対応して掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定（以下「対象規定」という。）は、改正前欄に掲げる対象規定を改正後欄に掲げる対象規定として移動し、改正後欄に掲げる対象規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていないものは、これを新たに追加する。

改正後	改正前
〔略〕 一〇二十 〔略〕 二十一 遺伝性自己炎症疾患 二十二 五十三 〔略〕 五十四 カナバン病 五十五 五十七 〔略〕 五十八 カルニチン回路異常症 五十九 百 百一 原発性胆汁性胆管炎 百二 百三十五 〔略〕 百三十六 三頭酵素欠損症 百三十七 百四十一 〔略〕 百四十二 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	〔同上〕 一〇二十 〔同上〕 〔号を加える。〕 二十一 五十二 〔二号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 五十三 五十五 〔二号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 五十六 九十七 〔三号ずつ繰り下げる。〕 五十八 九十八 〔三号ずつ繰り下げる。〕 九十九 百三十二 〔三号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 百三十三 百三十七 〔四号ずつ繰り下げる。〕 百三十八 自己免疫性出血病Ⅱ

百四十三 〔略〕 百四十四 四肢形成不全 百四十五 〔略〕 百四十六 シトリン欠損症 百四十七 百六十二 〔略〕 百六十三 進行性白質脳症 百六十四 進行性ミオクロノスアスアス 百六十五 百七十九 〔略〕 百八十 セビアブテリン還元酵素（SR）欠損症 百八十一 前眼部形成異常 百八十二 百八十三 〔略〕 百八十四 先天異常症候群 百八十五 百八十六 〔略〕 百八十七 先天性気管狭窄症 百八十八 百八十九 〔略〕 百九十 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症 百九十一 先天性三尖弁狭窄症 百九十二 百九十三 〔略〕 百九十四 先天性僧帽弁狭窄症 百九十五 〔略〕 百九十六 先天性肺静脈狭窄症 百九十七 二百一十一 〔略〕 二百一十二 大理石骨病 二百一十三 二百一十八 〔略〕 二百一十九 多発性軟骨性外骨腫症 二百二十 二百四十 〔略〕 二百四十一 特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。） 二百四十二 二百五十五 〔略〕 二百五十六 ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	百三十九 〔四号繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 百四十 〔五号繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 百四十一 百五十六 〔六号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 〔号を加える。〕 〔号を加える。〕 百五十七 百七十一 〔八号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 〔号を加える。〕 百七十二 百七十三 〔十号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 百七十四 百七十五 〔十一号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 百七十六 百七十七 〔十二号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 〔号を加える。〕 百七十八 百七十九 〔十四号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 〔号を加える。〕 百八十一 百九十五 〔十六号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 百九十六 二百一 〔十七号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 二百二 二百二十二 〔十八号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕 二百二十三 二百三十六 〔十九号ずつ繰り下げる。〕 〔号を加える。〕
---	--

備考 表中の「」の記載は注記である。	二百五十七～二百七十 [略]	二百三十七～二百五十 下げる。」「二十号ずつ繰り 下げる。」
	二百七十一 非ケトーシス型高グリシン血 症	「号を加える。」
	二百七十二～二百七十五 [略]	二百五十一～二百五十四 繰り下げる。」「二十一号ずつ 繰り下げる。」
	二百七十六 左肺動脈右肺動脈起始症	「号を加える。」
	二百七十七～三百一 [略]	二百五十五～二百七十九 繰り下げる。」「二十二号ずつ 繰り下げる。」
	三百一 β-ケトチオラーゼ欠損症	「号を加える。」
	三百二～三百十一 [略]	二百八十～二百八十八 り下げる。」「二十三号ずつ繰 り下げる。」
	三百十二 芳香族シ-アミノ酸脱炭酸酵素 欠損症	「号を加える。」
	三百十三～三百二十四 [略]	二百八十九～三百 「二十四号ずつ繰り下 げる。」
	三百二十五 無虹彩症	「号を加える。」
	三百二十六～三百二十八 [略]	三百一～三百三 「二十五号ずつ繰り下げ る。」
	三百二十九 メチルグルタコン酸尿症	「号を加える。」
	三百三十～三百五十八 [略]	三百四～三百三十二 「二十六号ずつ繰り 下げる。」